



災害時の生活拠点として地域社会を守る

地下水を利用した生活用水の備蓄を始めました。

非常時には、地域の方々へも提供します。

いつ起こるか分からない災害。名張育成会は、災害発生時には名張市の福祉避難所になるのと併せて、地域の生活拠点としても重要な役割を担います。そのため、非常時のライフライン寸断に備えて、地下水を利用した生活用水の備蓄を始めました。

ライフラインが寸断され、「困った」では済まされないのが生活用水の確保。生活用水とは、掃除、洗濯、手洗い、トイレでの使用など、飲み水ほど安全でなくても、**非常時の衛生を保つ生活には欠かせない水**のことです。

名張育成会は、**災害発生時には名張市の福祉避難所になり、また地域生活拠点として地域に住まう方々の暮らしを守る、重要な役割を担います。**

それら福祉避難所や、地域生活拠点としての機能を充実させ、地域での役割を果たすためには、大量の生活用水を必要とします。そこで、**法人敷地内に井戸を掘り、地下水を汲み上げて貯水することで、地域の方々にも利用いただける生活用水として、備蓄しておくことになりました。**地下水掘削工事は昨年11月に終わって一旦水源を確保し、次に貯水槽設置をこの春に完了させ、今年度より備蓄を始めています。



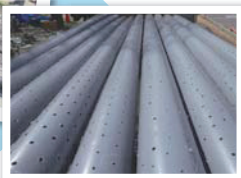
地下水は一旦貯水槽に溜められ、手前にある2つの蛇口から配水されます。

パン工場の隣にあったログハウス跡に貯水槽(右奥)を置き、その手前に掘った井戸から地下水を汲み上げ、非常時の生活用水として備蓄します。

井戸の深さは地下約37m、そこから湧き出している水量は、昨年秋の施工時点で1分間に2.0リットル~3.0リットルと少ないのですが、今後湧出水量は使用とともに増えてくると考えられており、貯水槽に5000リットルの水を備蓄しておくことで、災害時に備えます。



パン工房横の駐車場でやっている井戸の掘削工事。湧き出し水量を確認したのち、左奥にあるログハウス地に貯水槽を設置しました。



このような、塩ビパイプが地下37mまで繋がっています!



この写真は昨年秋、地下の井戸に水を送り井戸内の清掃を行っているところ。これで、水源の確保は確実となりました。



この蛇口が、非常時に福祉避難所や地域生活拠点での、「生活用水配水口」として活躍します! 備えあれば憂いなしですね。

いつ起こるか分からないのが災害です。名張育成会では、**社会福祉法人としての社会的使命**に加え、**何事も先駆的に取り組む**という、昭和32年創設時からの「DNA=遺伝子」を持っています。この生活用水の確保にとどまらず、**利用者はじめ地域に住まう方々の大切な生活を守る法人**として、これからも**災害に強い法人**を目指し取り組んでまいります。

取材:広報委員会

災害に役立つ貯水槽

さて、今回ご紹介した生活用水ですが、貯水槽には**常時5000リットル**の水が確保できます。これは、大人1人が衛生面を保つために必要とする生活用水を**1日3リットル**とすると、**一度に1600人以上の水**を確保していることになります。使用後も、貯水槽へは**約1日でほぼ満水**になる地下水を汲み上げることができますので、災害時には多めに頼りになりますね。

また平常時でも絶えず流水して一定量の水を入れ換え、備蓄している水がいつでも衛生的であるように鮮度を保っています。

〈災害に強い法人を目指して〉

名張育成会が名張市より指定を受けている**福祉避難所**とは、高齢者や障害のある人など、避難所生活で特別な配慮が必要な方のための避難所で、専門的な立場から地域を支えます。

取材:広報委員会



一回の貯水で約5000リットルの生活用水になる。

